

No.109 2018. 7. 30 <sup>あおじゅかい</sup> 会報「青樹会」 会報事務局 〒331 - 0825

中国内モンゴル沙丘・草原緑化研究会 さいたま市北区櫛引町 2-574-2 GA 大宮 111 号  
代表 押田 敏 雄 押田 敏 雄 方(青樹会事務局長代行)  
(Tel & Fax 048 - 664 - 5884)  
<http://www5a.biglobe.ne.jp/~aojukai/> e-mail:oshida@azabu-u.ac.jp

## 1. 「映画鑑賞会」と「新年会」が開催されました

去る1月13日(土)に「映画鑑賞会」+「意見交換会」と「新年会」が開催されました。映画鑑賞会と意見交換会は東京駅八重洲倶楽部で14時から、新年会は庄や八重洲口店で17時からそれぞれ開催されました。

今回の映画は台湾映画・「父の初七日」でした。台湾で執筆活動を行っているエッセイ・リウが自身の散文「父後七日」を基にワン・ユーリンと共同でメガホンを取り、本国でロングランヒットを記録した笑って泣ける家族の物語。台湾の田舎町を舞台に、父親の葬儀をめぐる繰り広げられるさまざまな出来事をユーモアたっぷりに描写する。本作が映画初出演のワン・リーウェンが都会で働く娘を好演。彼女の父親を『幻遊伝』などのベテラン、タイ・バオが演じている。にぎやかな台湾式葬儀のあり方や、万国共通の別れをテーマにした物語に引き込まれる。

なお、DVDを押田が所有していますので、ご覧になりたい方は、ご一報下さい。

映画鑑賞会と意見交換会には中村(民)、中村(千)、西、神尾、窪田(定)、窪田(誠)、



エッセイ・リウ監督



左:手前から、石川、押田(明)、押田(照)  
右:手前から、押田(敏)、中村(千)、中村(民)、立野



左:手前から、窪田(誠)、窪田(定)、樋川、西  
右:手前から、近田、窪田(恵)、神尾

窪田(恵)、近田、立野、石川、樋川、押田(明)、押田(照)および押田(敏)の14名が参加されました。

映画が終わってからの意見交換会は各自の近況報告、沙漠緑化に注いだ感想などが披露されました。

次いで、場所を「庄や八重洲口店」に移動し、新年会が賑やかに行われました。

## 2. 赤峰科学院のオヨンゴワ先生が来日

去る4月3日(火)、赤峰科学院(日本の短期大学に相当)のオヨンゴワ先生が急遽、来日しました。「歓迎会」を思い立ちましたが、話が急だったので、メール通信が可能な方々へのみの連絡でしたが、平日にも拘わらず11名の方々が参加されました。連絡が付かなかった各位にはお詫び致しますとともに、メールの一斉送信の便利さを痛感しました。

今回は、オヨンゴワ先生の弁によれば、日本の母校(兵庫県立大学)での仕事での来日であったとのことでした。

急遽の集まりでしたが、会場は何時も「庄や八重洲口店」で、18時開始でした。参加者は石川、中村(民)、野上、立野、神尾、近田、中川、樋川、窪田(定)、窪田(誠)、押田の各位でした。



左:手前から中村、オヨンゴワ先生、窪田(定)、窪田(誠)、野上、神尾  
右:手前から石川、樋川、近田、立野、中川 右の写真の右側手前は押田

## 3. 「2018年度の総会」が開催されました

去る6月10日(日)に「青樹会」の総会が開催されました。15時から、いつもの東京駅八重洲倶楽部で、イレギュラーですが日曜日の開催となりました。また、オヨンゴワ先生が4月に続き、再びの来日となり、総会終了頃に入国の成田空港から直行し、出席されました。

参加者はオヨンゴワ、野上、中村(民)、石川、神尾、樋川、中村(千)、窪田(定)、窪田(誠)、窪田(恵)、立野、西、小泉(由)、川鍋(功)、鈴木、中川および押田でした。なお、中村(千)さんは懇親会から、鈴木さんと川鍋さんは総会のみでの参加でした。

今回は先ず、押田事務局長の挨拶の後、総会に移りました。議長は野上さんをお願い致しました。総会議事(次の項目に総会資料を掲載)は執行部の提案通り、2017年度の活動、決算および2018年度の活動方針、予算および役員体制が可決承認されました。総会後に、今期で会長を退いた西さん(2018年度から名誉会長に就任)へ、新会長になった中村(民)さんから感謝状と記念品が贈呈されました。また、西さん、中村(民)さんから退任と就任のあいさつがありました。

なお、今回参加の川鍋(功)さんは川鍋祐夫先生のご子息で、現在は緑化に特化した会社を立上げて、事業展開をされているそうです。



議長の野上さん



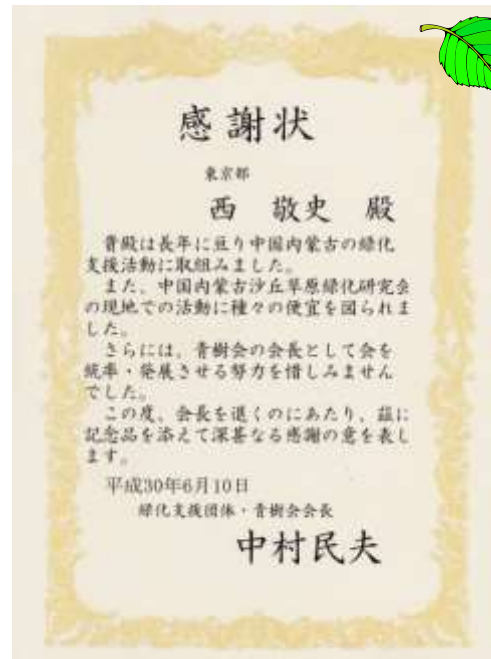
左から、川鍋、立野、窪田(定)、窪田(誠)、窪田(恵)、鈴木、小泉



左から、神尾、石川、樋川、野上、中村(民)、西、押田



中村民夫会長(左)と西敬史名誉会長(右)



#### 4. 「2018 年度総会」報告

総会当日の配布資料(抄)を再掲載致します。意見や疑義がある場合には事務局代行まで!!

<平成 29 年度(2017 年度)会務報告> 2017.4.1~2018.3.31

##### 1. 概要

中国の2017年の実質経済成長率は6.9%だった。成長率が前年を上回るのは7年ぶりだが、目標とした6.5%前後は達成した。昨年は共産党大会を前に拡大した公共投資が寄与したが、今年は減速が予想される。特に不動産に絡むリスクに注意を払うべきだ。

中国景気を牽引する個人消費は堅調だ。巨大な中国市場を狙う外国企業の投資意欲は旺盛である。輸出も伸び、焦点の対米貿易黒字はトランプ米大統領の批判を受けつつも過去最高を記録し、失業率も比較的低い。

とはいえ、中国政府が鳴り物入りで旗を振ったはずの供給サイド重視の構造改革、とりわ



け生産能力の削減が滞りがちなのは気になる。17年の粗鋼生産は公共投資の増加に伴う市況好転で過去最高になる。この反動は景気後退時に重くのしかかる。



「社会主義市場経済」を標榜する中国は土地公有制を崩さず、期限付きの使用権を売買している。だが実際には不動産が経済の支え役になっている。中央・地方政府が土地使用権を売り出し、その収入が財政を支える構造である。

大都市では住宅価格が暴騰した。2、3年で4倍になった地域もある。高学歴の若手夫婦がほぼ一生分の給与をつぎ込んででもマンションを買えない。不動産の活用で得られる収益と無関係な高騰の原因は、今後も値上がりするはずだという期待に基づく投機だ。

企業などの債務比率の高さも金融リスクを顕在化させかねない。少子高齢化で労働人口は今後、減少に向かう。既に製造業の労働コストの上昇は著しい。長く続いた「一人っ子政策」は転換ヘカジが切られたが、人口構成を変えるには長い年月がかかる。

成長の鍵は独自の新技术開発だ。習近平国家主席は人工知能(AI)をはじめ、様々な中長期計画に言及した。注目したいのはプロジェクトを具体化する政府の布陣だ。3月の全国人民代表大会では李克強首相以外の経済、貿易、金融、情報など各分野を担う副首相、閣僚らの人事が焦点になる。

共産党人事では中央での行政経験に乏しい習氏側近らの抜擢が目立ち、一部で軋轢を生んだ。巨大国家の今後を左右する経済の行く手には多くの地雷が埋まっている。その処理では官僚機構を上手に動かす必要がある。習氏側近らを補佐する実務経験豊かな人材が登用されるか注目したい。

## 2. 活動報告

青樹会の活動は次のとおり。

### (1) イベント・打合せ等の活動

年月日	活 動	会報掲載
29/5.27	総会(八重洲倶楽部)。14名参加。	108号
11.6	ゆうちょ財団・平成29年度国際協力報告会(東京地区)に参加。	
30/1.13	映画「父の初七日」鑑賞会と新年会開催(八重洲倶楽部)。14名参加。	
4.3	赤峰科学院・オヨンゴフ先生来日の歓迎会。11名参加	
5.23	次期体制の検討会議(都内)	
6.5	会計監査	

### (2.) 会報の発行(1回)

No108(29. 12.25 発行)

## 3. 収支決算書(会計報告) 2017.4.1~2018.3.31

### 1. 一般会計

(円)

区 分	金 額	備 考
前年度繰越金	359,707	
収 入	会員会費	99,000 33名分
	協賛金	0
	募金	30,000 募金10名
	特別会計から繰入	465,000
	受取利子	1
計	594,001	
支 出	印刷費	460,952 活動誌作成
	会場借用料	32,000 2回開催
	通信費	46,020 メール便、ハガキ
	雑費	15,510 消耗品など
計	554,482	
収支差額	39,519	
①次年度繰越額	399,226	

2. 緑化募金会計

(円)

区 分	金 額	備 考
前年度繰越金	465,000	
当年度収入	0	
当年度支出	465,000	5/26 一般会計繰入
当年度収支差額	-465,000	
②次年度繰越額	0	募金会計閉鎖

3. 現金預金残高照合

(1) 年度末残高: (①+②) 399,226 円

(2) 残高照合(2018.3.31) (円)

区 分	金 額	備 考
現 金③	9,820	
郵便貯金口座④	341,406	2018.3.31 残高(別添写し A)
郵便振込口座⑤	48,000	2018.3.31 残高(別添写し B)
合 計	399,226	③+④+⑤

<会計監査報告>

私たち監事は青樹会の2017年度(2017年4月1日から2018年3月31日まで)の会計監査をいたしました。収入の部、支出の部いずれも適切に処理されておりますことを確認いたしました。以上、会員の皆様にご報告申し上げます。

2018年6月5日

監事 埼玉県三郷市早稲田 1-25-2 丸山和也(印)  
千葉県我孫子市泉 28-7 中村千由(印)

<平成30年度(2018度)会務方針> 2018.4.1~2019.3.31

1. 概要

20年の長きに亘っての烏蘭敖都村での緑化活動は一定の成果を見た。記念誌は「中国内蒙古緑化活動21年の軌跡」というタイトルで2017年度に完成した。

中国に対してというか、ボランティア活動にも新鮮さを感じない人々も増えてきたことは事実として否定しえない。

今後は、青樹会の方向性と烏蘭敖都村とどのような関わり合いを持続させるかなど、議論し、意見集約し結論を見出さなければならない。

2. 活動計画

活動計画は次の通り。

(1) イベント・打合せなどの活動

項 目	期 日	参加者数など	会報掲載
総会	6/10(日)		109号(予定)
幹部会合			
2019 新年会			

(2) 会報の発行

2017年度の会報発行はわずかに1回であったが、記事の集まり具合、必要な情報が把握次第、逐次(複数回)の発行を目指します。

3. 収支予算書(予算計画) 2018.4.1~2019.3.31

1.一般会計

(円)

区 分		金 額	備 考
前年度繰越金		399,226	
収 入	会員会費	99,000	33名分
	募金	10,000	
	受取利子	1	
	計	109,001	
支 出	通信費	50,000	会報送付等
	会場借料	40,000	貸会議室 2回×20,000円
	雑費	19,000	
	計	109,000	
収支差額		1	
次年度繰越額		399,227	

2.緑化募金会計

(注)2017年5月末日をもって、緑化募金会計を閉鎖致しました。

4. 役員名簿(案)

1.会 長	中村民夫	団体職員(青樹会会計担当)
2.名誉会長	西 敬史	自由業
3.副 会 長	神尾由恵 押田敏雄	元イオン環境財団事務局長 麻布大学名誉教授・中国科学院瀋陽応用生態研究所客員教授
4.事務局長(代行)	押田敏雄	
5.監 事	丸山和也 中村千由	丸山国際法律特許事務所所長・参議院議員 農政ジャーナリスト
6.評 議 員	窪田定一 石川和子 立野恵子 近田康二 押田明則 堀口恵子	会社役員 イラストレーター 畜産ジャーナリスト 会社員 東京農業大学客員教授
7.参 与	野上剛志 磯田隆弘 磯 日出夫	座間市教育研究所嘱託 都立調布北高等学校教諭 磯動物病院院長

5. 新会長の就任挨拶 <青樹会会長 中村民夫>

2018年度青樹会総会において3代目の会長に選任されました。一言ごあいさつを申し上げます。

(1) 1995年に中国内モンゴ沙丘・草原研究会主催により市民ボランティアを集めてウランアオジュ村の沙漠緑化ツアーが開催され、その参加者により「青樹会」が1998年に設立されました。初代会長は麻布大学教授川鍋祐夫先生(1998~2010年)、川鍋先生が逝去され



青樹会会長・中村民夫

た後の2代目会長は中国の丹東市で幼少時代をすごした西敬史氏(2010～2018年)でした。

会の名前の発案者は西敬史氏です。「青樹会」の名前にはウランアオジュ村と中国内蒙古を青々とした樹木の茂る土地にしたい、という希望が込められています。

(2) ウランアオジュ村への支援は、1995年から2016年まで、春と夏の2回開催を基本として実施されました。この間に起こったSARS(2003年春)や東日本大震災(2011年春)による中止はあるものの41回の市民ボランティアツアーが催行されました。

この間に緑化ツアーに参加した人数は、のべ543名です。青樹会は、ツアーに参加した人たちと、会の趣旨に賛同いただいた人たちを会員として、会員への情報提供として「青樹会報」を発行し、総会、ツアー報告会、新年会などを開催してきました。

(3) 青樹会の目的は、その規約の中で「中国内蒙古沙丘・草原研究会の支援組織として沙漠緑化活動をすると共に、会員相互の親睦と理解を深める。また、地球の生活環境を良くすることに寄与することを目的とする」とされています。

「沙漠緑化活動」、「会員相互の親睦」、「環境問題」の3つが青樹会の目的となっていますが、ウランアオジュ村の緑化事業が終了したことから、活動方針を再検討することが必要となっております。

(4) 中国の社会と経済は日本の数倍の速さで変わってきました。今後も大きく変わるでしょう。そのような中で、私たちが行った植樹や播種がウランアオジュ村の沙漠化防止に役立っているのか、村人たちは豊かになっているのか、村で知り合った友人たちは幸せに生活しているのか・・・そんなことを確認するツアーをしたいですね。彼の地のことが気になります。

青樹会は今、新しい事業を企画するか、それとも「ウランアオジュ村同窓会」として会員のみなさん相互の親睦を図る組織として存続するのか、という検討が必要な時期となっています。

これらについては、皆さまのご意見を伺って方向を定めたいと考えておりますので、よろしくお願ひします。

## 6. 訃報・・・

青樹会副会長の神尾由恵さんの御母堂の神尾八重子さん(享年 89歳)が2017年12月29日にご逝去されたそうです。内蒙古のツアーにも何度も参加(1996年夏、1997年夏、1998年夏および1999年夏)されました。

2010年6月に川鍋先生の偲ぶ会(2010年4月逝去)を都内で開催した時には遠方の愛知県岡崎市から駆けつけて下さったことを思い出します。



故・神尾八重子さん



個人的には2000年のイオン環境財団の「北京・万里の長城」の緑化支援ツアーで同行し、一緒に、緑化作業をしたり、何回も食事をしたことが思い出されます。ある朝、知らない中国人から「親子ですか?」と聞かれたことを妙に思い出します。

ご冥福をお祈り致します(押田敏雄)。

## 6. 会員からのたより

2002 年夏のツアーに参加された女性で「高橋智子」と言う方がいます。

何故か彼女とは年賀状やメールのやりとりを今も続行中です。

彼女からの今年の年賀状を見てビックリ。早速、お祝いのメールを送りました。



高橋 さま(2018.1.19)

嬉しい便りを戴き、有難うございます。寒川神社ですね…良く分かるでしょう!! 交通安全、安産祈願などは今でも寒川さんに行っていますので。

ところで、青樹会の会報に結婚したことを掲載させて下さいませんか? もし、是ならば、旦那さんの下の名前…苗字はレンさん。今、お二人は何処に住んで、何をされていますか? 写真はあれば下さい。無ければ戴いた年賀状を流用して下さい。

青樹会で中国に関係したヒトは中国人と結婚している率が高いことを感じました。

押田敏雄

押田先生(2018.1.24)

お祝いのお言葉をありがとうございます。うわあ、あの写真だけで寒川神社だと分かるんですね。驚きました〜! さて、会報への掲載は構いませんが、写真は最近のツーショットはないので、賀状のを利用していただければと。彼の名前は任せい(左が「青」で右が「見」の漢字)です。ピンインなら、REN Liang になります。基本的に今私は西安にある西北大学の日本語学科で日本語を教えています。彼は同市内の民間の日本語学校で働いています。だいび前の会員ですが、どうぞよろしく願います。

最後に、お返事が遅くなり、失礼しました。帰国後は、「伯母」「姪」関係がスタートしまして。合同結婚式をした妹が昨年秋に一足先に出産しましたので、私も「伯母さん」デビューです。人生はまだまだ「初体験」があるものだなあと感じています。

高橋智子

## 7. 2018 年度の会費の振込みをお願い致します

4 月 1 日より始まりました 2018 年度会費(個人会員 3,000 円、学生会員 1,000 円)納入の件、よろしくお願い致します。

お振込みの手続きは、今回の会報に同封の青い「払込取扱票」で、手続きが出来ます。

なお、会計は中村民夫会長(tamio\_n@hotmail.com)が担当しています。中村さんへの連絡は押田経由(oshida@azabu-u.ac.jp)か、直接、ご本人へお願い致します。

便振替払込書  
(払込取扱票)青

□座番号  
00190-3-566175  
加入者名 青樹会



## 8. 会報の原稿を募集しています

最近、気になること、私の提案、中国情報、その他なんでも原稿をお寄せ下さい。あて先は押田(oshida@azabu-u.ac.jp)へ、メールで戴けると幸いです。なお、メールが困難な場合には fax(048-664-5884)か郵送で(331-0825 さいたま市北区榎引町 2-574-2 GA 大宮 111 号)押田敏雄までお願い致します。